

林野庁近畿中国森林管理局では、令和6年能登半島地震により発生した山地災害に係る民有林直轄治山事業の効率的かつ効果的な復旧方針について、学識経験者等による技術検討及び助言をいただくことを目的に、「令和6年能登半島地震による山地災害対策に関する技術検討会（第3回）」を開催しました。
最終回となる第3回の技術検討会においては、復旧方針（案）について助言をいただきました。

1. 日 時 令和6年8月29日
2. 場 所 石川県農林総合研究センター
3. 委 員 座長 柳井 清治 石川県立大学 生物資源環境学部 特任教授
大丸 裕武 石川県立大学 生物資源環境学部 教授
岡本 隆 国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 森林防災研究領域治山研究室 室長
4. 議 題 ・ 第2回検討会指摘事項の対応
・ 復旧方針（案）

【主な委員意見】

○今検討会において提示された復旧方針（案）は妥当と考える。

○地すべり性崩壊地における土塊の再滑動等に関する調査については、融雪期も含め継続して行うことが望ましい。

○山腹崩壊等に伴い非常に多くの倒木が発生していることから、倒木を植生基材用のチップや構造物の部材などの治山工事用資材として利用するなど、森林復旧に有効活用し、廃棄物の削減に取り組んではどうか。

○能登の創造的復興に向けた取り組みとして、復興の機運が高まるよう、地域参加による森林復旧に取り組んではどうか。



意見交換等実施状況